



sousei akita

曹 青 秋 田



通常総会・

役員改選

去る四月十七日、秋田キャッスルホテルにて、今年度通常総会が開催されました。令和四年度活動・決算報告、同ボランティア活動報告、新年度活動計画案・予算案が審議され、全て承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に第四教区珠林寺副住職・鮎川義寛師が選出されました。次いで、新会長の推薦により、副会長に第九教区鳳来院副住職・櫻田元康師と、第十二教区瑞光寺住職・加藤龍徳師が就任し、栗谷大三前会長が新顧問に承認されました。今期は《つなぐ》をテーマに進めていきたい旨が示されました。

つなぐ



会長 鮎川 義寛

第二十二期秋田県曹洞宗青年会会長を拝命致しました、四教区珠林寺(秋田市)副住職の鮎川義寛と申します。

七月十四日から降り続いた大雨は秋田県内各地に大きな被害をもたらし、おひとりの尊い命が失われました。亡くなられた方のご冥福を祈ると共に、被災された方の方の心の安寧と早期復興に向けて、栗谷前会長の時のテーマでもあります「**私たち青年宗侶に何が出来るか**」を考え、行動していきたいと思っております。

今期のテーマは「**つなぐ**」とさせていただきます。コロナ禍を経て、先輩方が築いてこられた伝統を今の状況に合わせながらつないでいきたいと思っています。また、会員同士のつな

がりや関係団体とのつながり、さらには一般の方、悩みを抱えている方や仏教に興味のある方と、つながっていくような活動を展開していきたいと存じます。

去る七月二十八日「弁道会」を開催しました。曹洞宗秋田県宗務所寺族会様と曹洞宗秋田県宗務所婦人会様の皆さまにもご案内し、青年会会員と共に場を共有させていただきました。弁道会では、青年会で開催しております「祈りのつどい」の原点を学びながら、誰かのために活動することの意味を考える機会になればと、三人の講師をお招きしてパネルディスカッションを行いました。参加された方にとって、有意義な時間になったら幸いに思います。頼りない会長ではございますが、会員の皆さま、県内御寺院様、関係団体の皆さまのご法愛とご指導を賜りますようお願い申し上げます。この二年間、精一杯務めさせていただきますので、どうかよろしくお願ひ致します。

多様性



副会長 櫻田 元康

前代未聞の病が世界中で蔓延し、多くの制限の中でも少しずつ世情が好転し始めて来た感覚を抱きつつあった令和五年二月のある日、一本の電話を頂きました。いろいろお話をさせて頂きましたが、「**青年会の副会長をお願いしたい**。」という言葉に、ほとんどの内容が吹き飛んでしまいました。教区の代議員として様々な会議や行事に参加させて頂きましたが、執行部という中核を担う立場となるとは想像もしておりませんでした。お役目を頂いた今でも、まだ戸惑いが残っているのが正直なところです。

平成二十年に永平寺に安居し、翌年の送行を経てから程なくして青年会に入会させて頂きました。当時は法要にも疎

く、失礼ながら県内の御寺院様のお名前やお顔も何一つ分からないままだったと記憶していますが、多くの諸先輩方にご指導頂きながら年月を重ね、気づけば自分より若い世代の方が多く見られるようになりました。かつて先輩方から教わって来た立場から、後輩達へ伝える立場になったと共に、後輩達からも学ぶことができる立場となりました。

青年会の面白いところは、安居地や修行年数、学歴や出身地もそれぞれ異なるという**多様性**にあると思っています。その中で色々な角度からの物事の捉え方や、それぞれの蓄積された経験の在り方の違いを感じることが出来るのは、非常に難しいことです。そっかしい性分も相まって、会員の皆様には色々ご不便をお掛け致しますが、加藤副会長とともに鮎川会長のものと、第二十二期秋曹青を盛り立てていきますよう尽力させて頂く所存です。引き続き多くの皆様からのご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

移ろいゆく中で



副会長 加藤 龍徳

今期副会長を務めさせていただきましたことになりました、十二教区瑞光寺住職 加藤龍徳と申します。

永平寺を送行してからしばらく県外で活動していたため、秋曹青の研修会や行事に携わることができずにいたので、お声がけいただいた時は、自分に務まるものか不安がありました。自分が、自分も青年会の中で何かお役に立てればという思いが常に心の中にあり、大役ではございますが、自分のできることを精一杯つとめていきたいと思っています。

世の中は常に移り変わるものであります。

便利な物が開発され、それによって生活様式も変わってきます。それと同時に人々の考

え方、価値観も変わります。合理的に物事を進め、無駄をなくしていこうとする中で、我々お寺側もそれに順じていかなければいけないこともあります。ですが、残していかなければいけないこと、伝えていかなければいけないことがあります。青年会での研修会や行事を通して、若い僧侶だからこそ見えてくるもの、気付くことがあると思います。これからのお寺、僧侶にできることは何なのか、求められていることは何なのか、深く考えていけたらと思っています。

時運に乗じて



事務局長 伊藤 涼平

今期事務局長を拝命致し、その責任に身の引き締まる思い

です。未だ秋曹青活動の全容を把握出来ずにいる身でありますが、一日も早く慣れ、皆様のお役に立てるようになりたいというのが現在の心境であります。恥ずかしながら事務局の御役を目の当たりにし、前任の皆様のおかげでの御尽力に深く感謝するに至りました。私がかこまでの大役を果たせるか甚だ不安ではありますが、精一杯務めさせて頂きますので、今後ともお力添えの程宜しくお願い申し上げます。

御役目と能力に大きなギャップはあるものの、これを機会と捉えて精進してまいります。事務局長の役割は、会員や檀信徒の皆様から寄せられるご要望、会長・副会長から発せられる全体使命を察知し、価値ある事業を機敏に構想・試行錯誤・運営することと捉えております。身に余る大役であることは重々承知しておりますが、目の前のことを一歩一歩丁寧に進めてまいりたいと思っています。

事務局長として鮎川会長を補佐し、諸先輩方がつないだもの、現在の多くのつながり、こ

れからの新しいつながりを大事にし、力を合わせて活動を盛り立ててまいります。二年間どうぞよろしくお願い致します。



令和4年度 秋田県曹洞宗青年会 収支決算書

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

総収入	2,573,360
総支出	1,699,363
収支残高	873,997

次年度へ繰越

収入の部

単位：円

項 目	4年度予算額	4年度決算額	増▲減	摘 要
1 会費	1,135,000	1,262,000	127,000	
1. 年会費	635,000	635,000	0	正会員5000×127名分
2. 賛助会費	500,000	627,000	127,000	
2 補助金	500,000	500,000	0	曹洞宗秋田県宗務所様
3 寄付金	1,000	0	▲ 1,000	
4 雑収入	652	12	▲ 640	受取利子
5 繰越金	811,348	811,348	0	令和3年度分
合 計	2,448,000	2,573,360	125,360	

支出の部

項 目	4年度予算額	4年度決算額	増▲減	摘 要
1 事業費	1,200,000	823,427	▲ 376,573	
1. 研修費	950,000	625,152	▲ 324,848	各種研修会費
2. 広報	250,000	198,275	▲ 51,725	会報、WEB運営 等
2 事務費	290,000	141,494	▲ 148,506	
1. 事務記録費	100,000	32,801	▲ 67,199	事務用品 等
2. 通信費	110,000	60,823	▲ 49,177	郵送料(事業・活動案内発送)等
3. 交際費	60,000	40,000	▲ 20,000	祝賀、香資
4. 慶弔費	20,000	7,870	▲ 12,130	電報(祝電5通)
3 事務局費	60,000	60,000	0	事務機器使用経費
4 会議費	100,000	10,442	▲ 89,558	
1. 総会	60,000	3,252	▲ 56,748	飲み物代等
2. 役員会	40,000	7,190	▲ 32,810	飲み物代等
5 負担金	200,000	184,000	▲ 16,000	全曹青会費、東北地協会費 等
6 補助金	350,000	330,000	▲ 20,000	全曹青出向補助、東北地協出向補助
7 積立金	150,000	150,000	0	曹洞宗青年会東北地方集会準備金
8 予備費	98,000	0	▲ 98,000	
合 計	2,448,000	1,699,363	▲ 748,637	

曹洞宗青年会東北地方集会「秋田大会」準備金積立合計：3,500,012円(令和5年3月31日現在)

令和5年度 事業・活動計画

は秋曹青主催事業

事業	日付	内容	会場	備考
◎秋田県曹洞宗青年会				
総会	4月17日	通常総会・役員改選	秋田キャッスルホテル	
代議員会		第1回 他適宜		
弁道会		第36回		
随聞会		第41回		
住職学研修				
曹青秋田 発行		94号・95号		
◎東北地区曹洞宗青年会連絡協議会				
東北地方集会	10月20日		青森県	
◎全国曹洞宗青年会・全日本仏教青年会				
評議員会・中央研修会	5月18日	中央研修会「社会の価値観に寄り添った布教」	曹洞宗檀信徒会館	
総会	5月19日		曹洞宗檀信徒会館	

第22期 秋曹青役員名簿

◎執行部

会 長	鮎 川 義 寛	4教区	珠 林 寺
副 会 長	桜 田 元 康	9教区	鳳 来 院
々	加 藤 龍 徳	12教区	瑞 光 寺
監 事	奥 山 春 彦	10教区	浄 福 寺
々	松 井 祐 司	11教区	長 年 寺
々	佐 藤 善 廣	18教区	本 宮 寺
事 務 局 長	伊 藤 涼 平	3教区	蔵 立 寺
事 務 局 次 長	本 間 秋 彦	4教区	恵 林 寺
会 計	佐 藤 幸 悦	3教区	泉 流 寺
書 記	浅 田 高 俊	4教区	龍 門 寺
庶 務	矢 萩 宗 淳	3教区	慶 祥 寺
々	藤 原 晃 徳	4教区	正 眼 寺
々	越 中 涉 雲	4教区	興 昌 寺
々	横 山 智 弘	14教区	蚶 満 寺

◎事業部

部 会 長	山 田 卓 爾	9教区	倫 勝 寺
副 部 会 長	渡 邊 英 心	9教区	松 庵 寺
部 員	佐 藤 宗 明	18教区	全 應 寺
々	荻 津 賢 廣	6教区	春 光 寺

◎研修部

部 会 長	鈴 木 慶 道	1教区	東 光 寺
副 部 会 長	福 本 光 佑	1教区	玄 心 寺
部 員	朽 木 光 哉	5教区	永 巖 寺
々	柿 崎 隆 仁	5教区	東 山 寺
々	伊 藤 裕 道	7教区	太 寧 寺

◎広報部

部 会 長	佐々木耕志	7教区	福 城 寺
副 部 会 長	土 屋 泰 順	3教区	龍 源 寺
部 員	下 釜 瑞 希	17教区	圓 福 寺

◎WEB委員会

委 員 長	和 田 泰 雲	3教区	瑞 林 寺
副 委 員 長	佐 藤 龍 道	3教区	東 林 寺

◎ボランティア委員会

委 員 長	二 坂 佳 邦	5教区	雲 岩 寺
副 委 員 長	尾 久 雄 人	15教区	能 持 院
委 員	今 野 秀 平	5教区	雲 岩 寺
々	村 田 泰 仁	5教区	龍 泉 寺
々	藤 原 大 輝	5教区	満 昌 寺
々	柿 崎 隆 昌	15教区	西 蔵 寺

◎代議員

代 議 員	鈴 木 慶 道	1教区	東 光 寺
々	築 地 徳 龍	2教区	珠 巖 院
々	佐 藤 龍 道	3教区	東 林 寺
々	東 光 隆	4教区	香 泉 寺
々	柿 崎 隆 仁	5教区	東 山 寺
々	荻 津 賢 廣	6教区	春 光 寺
々	佐々木耕志	7教区	福 城 寺
々	桃 園 宗 平	8教区	雲 巖 寺
々	丸 岡 健 樹	9教区	安 宗 寺
々	保 坂 大 心	10教区	新 田 寺
々	高 田 大 航	11教区	萬 松 寺
々	齋 藤 智 孝	12教区	千 手 院
々	小 嶋 良 晃	13教区	洞 泉 寺
々	檜 岡 龍 祥	14教区	龍 雲 寺
々	尾 久 雄 人	15教区	能 持 院
々	中 村 智 信	16教区	松 雲 寺
々	桜 田 元 伸	17教区	向 川 寺
々	佐 藤 光 潭	18教区	龍 泉 寺

弁道会

七月二十八日、宗務所・禅センターにおいて、今年度最初の事業となる弁道会が行なわれた。今回は「誰かのために祈りのつどいから考える」と題したパネルディスカッション形式の研修であった。最初に九教区・月宗寺御住職で現・宗務所長袴田俊英老師が、御自身が秋曹青会長だった二十年前に始められた《祈りのつどい》前後を振り返られた。当時は全国で最も自死者の割合が高い秋田県の中でも、師の地元・藤里町が抜きんでいた。その事に長年心を痛めていたが、自死に対しては「個人の問題」「自己責任」という風潮が強かったという。《祈りのつどい》は対象者を広げて現在も続き、また行政やNPOの取り組みも、当時に比べると遙かに進んだ。師の地道な努力が実を結んだのだと思う。また、日本人を強力に支配する「世間」の空気を、江戸時代まで遡って掘り下げた講義も勉強になった。

次に十一教区・恩徳寺御住職岩館裕章師が、御自坊で取り組む《母の日法要》を中心に話された。師は父親を早くに亡くし、隣県で独り

暮らしだった母親も急逝され、臨終に立ち会えなかった。その御両親に対しては命日より、誕生日に「生きていれば何歳かな」「母の日に」という事をしてあげたかった。———と思い出すという。また、中国で編纂された『佛説父母恩重經』を読み、受けた恩の深さを実感し、手紙に思いを記したところ、気持ちちが落ち着いた。この体験から、親に限らず、人前では口にしづらい想いを今は亡き相手に伝える手紙を供え、開封せずに母の日に奉納する取り組みを始め、十五年以上になる。今年は約七十通が寄せられた。遺された人が幸せに元気に過ごすのが最高の供養」という言葉が印象的だった。

次に秋田大学の研究者で、引きこもり支援のNPO代表も務めるヨンキム・フォン・ロザリン女史が話された。生まれ育ったマレーシアは多民族国家で、公の場ではどの民族衣装を着てもよく、食事の仕方も習慣も様々である。外資・国連・行政を経て、現在は精神保健の研究職と同時に、引きこもり支援の実践に取り組む。キムさんは最初に、内閣府・県・民生委員それぞれの調査で、県内のひきこもり人数に大きな差がある事実を紹介した。定義自体が曖昧な概念で、原

因が精神疾患・依存症・家庭環境：と多岐にわたり、アプローチの仕方も異なる。自死と同じく、個人や家庭の問題で片付けられる危険を常に持っている。大仙市大曲に拠点を置き、昨年は述べ五千件以上の相談に対処した。《頻繁なフォロー・踏み込んだ介入・医療や行政への橋渡し》を続ける彼女の「支援されている人が支援する人」に変わっていくのが大事」という言葉に、新鮮な驚きを感じた。

そしてコーディネーターの栗谷大三・前会長が、三名の持ち味を引き出す質問で、我々へのアドバイスをまとめてくれた。「やる事は実は単純。気軽な声掛けや少しの調節介が大事」「自分の時間と汗（努力）を少し他人の為に使う」「この人は引きこもりそうだな」という嗅覚が役立つ。相手を全肯定するだけでは解決できない。愛のあるツツコミが立ち直りのきっかけになる」という言葉が力強かった。

我々秋田の宗侶は、地域や檀家といった「世間」でアプローチできる強みを持つ一方、まさにその「世間」で苦しむ人にとっては関わりづらい存在といえる。今回の弁道会は、自分に何が出来るかを改めて考える、非常に良い機会となった。

(佐々木耕志)



豪雨災害ボランティア

七月十五日頃から県内を襲った記録的な大雨により、各地で甚大な被害が発生しています。当会では有志を募り、秋田市・五城目町・能代市のボランティアセンター（以下「VC」と略称）を通してボランティア活動（以下「ボラ」と略称）に従事しました。（八月十日現在。能代VCは閉鎖）。ここでは紙面の都合上、数件の報告に留めさせて頂きます。一日も早い復興をお祈り致します。

七月十九日ボラ報告

能代市ニツ井地区

女性宅。裏手の小屋と庭に上がった泥かき、表へのゴミの搬出。床下辺りまで水は迫ったようです。自宅内は無事のように。地区の周りは流木が至る所に積み重ねられ、被害の大きいお宅も多く、復旧には時間が掛かりそうに見受けられました。

（事業部長 山田卓爾）

同市松長布地区

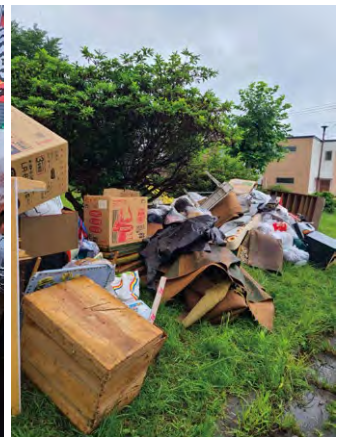
高齢女性宅。水に浸かってしまった畳や家財道具の運び出し。既に作業を終えている部屋もあり、主に寝室一部屋の作業。ベッドやタンス等大きい家具が多かったです。

（山田卓爾）

同日五城目町

二軒のお宅で活動。どちらも主な作業は水に浸かった家財道具の撤去並びに家屋に流れた泥の撤去。ほぼ手つかずの状態からの作業に加え、断水も発生しており、作業としては大きめの荷物や重たい家財がある程度撤去する程度に留まりました。断水が復旧すればまた効率も変わるのでしようが、まだまだ協力が必要かと思いました。伺った二軒はどちらも一階部分がほぼ全て浸水しており、家族の方々も何処から手をつければ良いのか目処も立てられない状況で、自宅で生活できる目処がたっていないという状態でした。

（副会長 櫻田元康）



七月二十一日

秋田市榎山でのボラ報告

午前・午後とも十名程度で二班に分かれての活動。被災世帯の多さに社協の把握が追いつかず、こちらが直接ニーズを伺って作業内容を決めていった。〆何度も電話してるんだけど、〆といらだつ方もいた。二メートル近く浸水した場所もあり、草や泥が壁に残っていた。泥水を吸った重い畳や、廃棄せざるを得ない家具の搬出を主に行なった。長く水に浸かった床板は腐食が進み、歩行もままならないお宅もあった。生ゴミ回収車が積載量ギリギリまで収集するため、走行中に液体が歩道や側溝に流れ、特有の臭いが鼻についた。被災家屋の確定はいつになるか見当もつかない（八月十日現在も調査中）。秋田市中心部でこのような被害が出るとは想像もつかなかった。ボラの私でさえ体力・気力とも過酷だったから、仕事や家事に追われながら後かたづけに従事する被災者の方々は、どれだけ苦しいだろうかと思った。

八橋VCに戻った際、野党の党首が視察中だった。この惨状が国政の場に伝わり、きめ細かい支援につながってほしい。

（佐々木耕志）

七月二十六日 二教区珠厳院様での ボラ報告

計十六名で、車庫・宝蔵庫・境内墓地の泥除去や、流れ込んだ木などの撤去作業を行いました。特に宝蔵庫の床上海水が深刻との事でした。活動に際し、二教区の御寺院様方より、飲物等の差し入れをいただきました。ありがとうございました。(伊藤涼平)



八月二日 秋田市上新城地区 でのボラ報告

東北地協菊池会長・四戸岸事務局長・岩手曹青日向師の三名と秋曹青OB二名・秋曹青四名で活動しました。「オーブンジャパン」の藤本さんがリーダーとして指示を出してくれました。床板剥がしと運搬、床板の泥落としを中心に行動しました。オーブンジャパンさんで継続的に関わっているお宅のようで、床板を外せたことで床下の泥も乾いて、数日後に床下の泥上げができそうとの事でした。

(鮎川義寛)



義 援 金

この度の大雨被害に関して、多くの方々から御支援を頂いております。順不同にて御芳名のみ掲載致します(八月十日現在)。

- 曹洞宗秋田県宗務所婦人会様
- 青森県曹洞宗青年会様
- 山口県曹洞宗青年会様
- 宮城県曹洞宗青年会様
- 曹洞宗福島県青年会様
- 東北地区曹洞宗青年会 連絡協議会様
- 龍光寺(鹿児島県) 秋吉龍成様
- 渡邊みどり様(東京都)

心より御礼申し上げます。
(鮎川義寛)

